

第17回全国消防救助シンポジウムの開催

参事官

平成26年12月19日（金）、「頻発する気象災害への対応能力の向上を目指して」をテーマに、第17回全国消防救助シンポジウムを東京都千代田区の日比谷公会堂において開催しました。

坂本森男消防庁長官の開会挨拶（次頁に掲載）の後、政策研究大学院大学特任教授の池谷浩氏に「土砂災害と救助作業」について、講演を行っていただきました。

その後この講演に引き続き、以下のとおり2件の特別報告及び6件の事例研究発表が行われました。

【特別報告】

國澤 健一 氏（東京消防庁）

「東京都大島町土石流災害に伴う派遣活動について」

秋好 政則 氏（広島市消防局）

「8.20広島豪雨災害における活動報告について」

【事例研究発表】

大霜 成章 氏（浜松市消防局）

「今できる気象災害への備え ～関係機関との連携について～」

西岡 知哉 氏（福岡市消防局）

「地下空間 ～都市型水害からの救出～」

木俣 智行 氏（京都市消防局）

「平成25年台風18号に伴う京都市消防局の活動について」

関根 良徳 氏（川崎市消防局）

「大雨における災害対応能力の向上について」

田中 大 氏（大津市消防局）

「生還への軌跡 ～消防・医療・事業者との連携～」

本池 圭蔵 氏（大阪市消防局）

「大阪市消防局が提案する土砂災害時の救助活動要領について」

続いて行われた総合討論では、講演者、特別報告者、事例研究発表者、更には会場の皆様を交えて「頻発する気象災害に如何に対処していくべきか」をテーマに活発な意見交換が行われました。

本シンポジウムは、全国各地から約2,000人の消防職員が参集し、お互いの経験や新たな取組みに関する情報の共有化が図られ、大変活気のある有意義なものでした。本シンポジウムが我が国の救助体制のなお一層の充実に寄与することを期待します。



池谷 浩氏の講演



総合討論

坂本消防庁長官の開会挨拶

第17回全国消防救助シンポジウム開催に当たり一言御挨拶申し上げます。

全国各地から2,000名を超える多数の消防関係機関の方々をお迎えして、このシンポジウムを開催できますことに心から御礼申し上げます。

昨年は、伊豆大島に記録的な大雨をもたらした台風第26号、冬の広範囲に及ぶ豪雪などの自然災害により、全国各地で多くの方々が犠牲となりました。また、今年に入り、7月と8月には台風や前線の影響により、全国各地で大雨に伴う多くの被害が発生し、なかでも、広島市においては、大規模な土砂災害の発生により、多くの方々の尊い命が失われました。この災害では、私達の仲間である消防隊員が救助活動中に再度発生した土石流に巻き込まれて殉職するという痛ましい出来事がありました。さらに9月には、御嶽山での噴火災害が発生し、このときにも多くの方々が犠牲となり、6名の方が未だ行方不明のままです。

このように、近年、多様な気象災害が頻発しており、消防機関による救助活動は以前にも増して、困難なものとなっております。救助隊員の皆様には、このような中、緊急消防援助隊の活動などを通じ、懸命な救助活動を行っていただきました。皆様のこれらの適切な救助活動の積み重ねにより、消防の救助活動に対する国民の期待はますます高くなっております。

また、東日本大震災を契機に、国民の防災意識はかつてないほど高まっており、南海トラフ巨大地震や首都直下地震に備えた準備を着実に進めていく必要があります。消防庁といたしましては、緊急消防援助隊、常備消防力の機能強化、消防団を中核とした地域防災力の拡充など、消防防災体制の強化に努めて参る所存であります。全国の消防機関の皆様におかれましても、平素から備え



坂本消防庁長官の開会挨拶

をより強固なものとし、これらの災害に万全な体制をとっていただきますことをお願い申し上げます。

今回のシンポジウムが、救助能力の向上に大いに寄与することを期待しております。

結びに全国の消防関係機関のますますの御発展と関係各位の御健勝を祈念しまして、挨拶といたします。

問合わせ先

消防庁国民保護・防災部参事官付 西本
TEL: 03-5253-7507